

## 市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	10月	9日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	野迫川村：寿楽院の阿弥陀如来座像				

所在地	吉野郡野迫川村北今西404				
所有者(取材 対応者)名	北今西(北今西区長 ***氏)( 個人情報守秘)		連絡先：0747-37-2101(野迫川村役場)		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：野迫川村教育委員会				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	阿弥陀如来座像 1978(昭和53)年3月31日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	村史作成に当たり村内の文化財調査を実施。平安時代の仏像として貴重であることから、村指定の文化財とした。				

## 文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	オコナイの日に仏前にローソクをたてるだけで、それ以外の日は火の気はない。室内には消火器があり、屋外には消火栓・消火ホースあり。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	動物の食べ物となるようなものがなく、常に施錠をしているため、被害はない。	特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	この地区(野迫川村北今西)では、県指定民俗文化財の「オコナイ」が1月2日に行われ、その日だけはこの地を離れた人たちも帰省して一時的に元の賑わいを取り戻すかのようなのである。以前は30軒ほどの家に住んでいた人たちも、現在は3軒しかなく、このままでいくと消滅してしまいそうな地域ではあるが、そんな中でも十数年前に移住者があり農業をされている。こんなふうに少しずつでも人口が増えていってくれば嬉しいと、区長さんは前向きに捉えられている。	

## 取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

県の無形民俗文化財になっている「オコナイ」で歌われる「ソヨナのウタヨミ」の中に、「堂のあみだ様が印度から渡ってくる道中に行をしながら来た」という一説があり、その阿弥陀如来が寿楽院(阿弥陀堂)に祀られている。オコナイの日の1月2日の1日だけしかご開帳されないことになっているためか、美しく保たれているように感じた。その日の主人公になる阿弥陀様が、この先も末永くいらっしやることを願いたい。

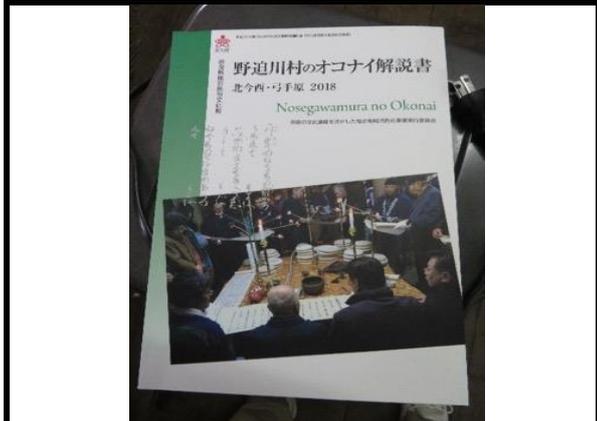
市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	10月	9日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	野迫川村：寿楽院の阿弥陀如来座像				

＜室内写真掲載不可のため、堂外写真のみ掲載＞

文化財指定名 阿弥陀如来座像

<p>寿楽院外観</p> 	<p>文化財の案内板</p> 
--	---

<p>「オコナイ」の解説書</p> 	<p>「オコナイ」の案内板</p> 
--	---

<p style="text-align: center;"><b>文化財の由緒などを記入</b></p> <p>ヒノキの一木割矧造 彫眼 漆箔 像高51.8cm平安時代の作。光背、台座は後補（江戸時代）。1974（昭和49）年に村史を発行するために文化庁・県・大学などの協力を得て、村中の仏像について調査した結果、このような情報はきちんと残っている。しかし、それまでの来歴などは全く分からないとのことである。</p>	<p style="text-align: center;"><b>所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</b></p> <p>もとの寿楽院の本堂は、現在の寿楽院(阿弥陀堂)のある位置から100mほど離れたところにあった。1889(明治22)年の水害で壊され、1953(昭和28)年の集中豪雨で全壊という被害を受けて何度か再建したが、今はその建物は無い。現在の寿楽院(阿弥陀堂)はその被害も受けておらず、天正二十年の棟札や、昭和三十八年の棟札が大切に残されている。</p>
---	---